

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 18010

建築物名称	ケーズデンキ川崎野川店
建築主	株式会社ケーズホールディングス 代表取締役 平本 忠
建築物の所在地	川崎市高津区野川3696番1 外22筆
設計者氏名、建築士事務所名	藤田 誠一 双葉設計有限会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	5,982.66m ²
用途	物品販売業を営む店舗
構造	鉄骨造
階数	地上2階
工事完了年月	平成31年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ケーズデンキ川崎野川店	階数	地上2F
建設地	川崎市高津区野川3696番1 外22筆	構造	S造
用途地域	第二種住居地域、近隣商業地域、準防火地域、第三種高度地区	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,015 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 竣工	評価の実施日	2018年5月27日
敷地面積	4,278 m ²	作成者	前原勝子
建築面積	3,089 m ²	確認日	2018年5月27日
延床面積	5,983 m ²	確認者	前原勝子



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 0.8</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 79% ③上記+②以外の 79% ④上記+ 79%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 2.6</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 2.8</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 2.9</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.2</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.0</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 3.1</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 2.6</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.2</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針に則ります	1.8/4.3	2.1
2 まちなみ・景観への配慮	川崎市景観条例に則ります		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	屋内駐車場をピロティとしています		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	卓越風向きに対する見付面積比が80%未満	0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.4
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能		0.5/0.8	3.0
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針に則ります	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	屋内駐車場をピロティとしています		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI1.06	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI0.75		
4 効率的運用	運用体制が組織化され責任者を指名する		
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.5/4.7	2.7
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避	発泡剤を用いた断熱材を使用しない		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	卓越風向きに対する見付面積比が80%未満	0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.6
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	躯体の耐用年数劣化対策等級1相当	0.3/0.5	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		1.9/4.0	2.4
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	駐輪場・駐車場は適切な台数を確保する	0.3/0.4	3.6
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針に則ります	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	屋内駐車場をピロティとしています		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI1.06	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI0.75		
4 効率的運用	運用体制が組織化され責任者を指名する		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	卓越風向きに対する見付面積比が80%未満	0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.3**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	躯体の耐用年数劣化対策等級1相当	0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI1.06	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI0.75		
4 効率的運用	運用体制が組織化され責任者を指名する		

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境							0.40		-	2.8
1 音環境						2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	1.00	3.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音						1.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.50	3.0	-	
2 外皮性能		W				3.0	0.17	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.33	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用						3.0	0.50	-	-	
1 昼光率						3.0	-	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備			W			3.0	1.00	3.0	-	
3.2 グレア対策						-	-	-	-	
1 昼光制御			W			3.0	-	3.0	-	
3.3 照度						3.0	-	3.0	-	
3.4 照明制御						3.0	0.50	3.0	-	
4 空気質環境						3.0	0.25	-	-	3.0
4.1 発生源対策						3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						3.0	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	-	
2 自然換気性能						3.0	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	-	
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-	

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.9
1 機能性									2.6
1.1 機能性・使いやすさ									
1	広さ・収納性				3.0	-	3.0	-	
2	高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性									
1	広さ感・景観				1.0	0.33	3.0	-	
2	リフレッシュスペース				3.0	0.33	-	-	
3	内装計画				1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理									
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性									2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振									
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数									
1	躯体材料の耐用年数		R		3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R		2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R		3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R		3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R		3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性									
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				1.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性									3.4
3.1 空間のゆとり									
1	階高のゆとり			階高3.85m	4.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.06	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり									
3.3 設備の更新性									
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)									2.2
1 生物環境の保全と創出				G	W				H
2 まちなみ・景観への配慮				G					
3 地域性・アメニティへの配慮									
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W				H

LR 建築物の環境負荷低減性										3.0			
LR1 エネルギー										0.40	-	-	3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制	W	H						1.0	0.20	-	-	1.0
2	自然エネルギー利用	W	H						3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	W	H	[BE][BEIm] =	0.75				4.0	0.50	-	-	4.0
4	効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価									3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	W	H						3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	W	H						3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価									-	-	-	-	
4.1	モニタリング	W	H						3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制	W	H						3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル									-	0.30	-	-	2.6
1	水資源保護	W	R						2.2	0.20	-	-	2.2
1.1	節水								1.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無								3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無								3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								2.5	0.60	-	-	2.5
2.1	材料使用量の削減	W	R						3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	W	R						3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R						3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R						1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	W	R						2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	W	R						3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避								3.7	0.20	-	-	3.7
3.1	有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避								4.0	0.70	-	-	
1	消火剤	W							-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	W							5.0	0.50	-	-	
3	冷媒	W							3.0	0.50	-	-	
LR3 数地外環境									-	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮	W							3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮									2.5	0.33	-	-	2.5
2.1	大気汚染防止								3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	G	W						2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制								3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減								3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制								3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制								4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制								3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮									3.2	0.33	-	-	3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	
1	騒音								3.0	1.00	-	-	
2	振動								-	-	-	-	
3	悪臭								-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制								3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制								3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制								3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制								3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制								4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	-	